

二〇一八年度 入学試験問題

適性検査型入試（第二回）

適性検査 I

★注意事項★

- この問題は、3ページあります。「はじめ」の合図があるまでは開かないこと。
- 解答用紙は中にはさんであります。受験番号・氏名を必ず記入すること。
- 解答はすべて解答用紙に記入すること。
- 印刷が不鮮明ふせんめいだったり、ページがぬけ落ちたりしているときは、すぐに申し出ること。
- 「やめ」の合図えんごがあつたら鉛筆を置き、先生の指示にしたがうこと。

1 次の文章A・Bを読んで、あとに問い合わせに答えなさい。

文章A

国際標準にA照らしてみて、特に日本人が苦手としているのが、「自分の意見を論理的に簡潔に言う」能力でしょう。

自己主張する風土がなかつたことも背景にあるのでしょうか。いつもでもはつきりした意見を言わない。川の流れのように話し続けますが、いつまでも賛成か反対かはつきりしません。しかし世界のルールでは、賛成か反対かを先に言つて議論を進めていくのが基本です。実は日本の大学の会議でも日本人は賛成、反対をはつきり言わずに議論を進めがちです。すると外国人の講師や教授から、「この案に賛成か反対かを最初に決めるべきではないですか」と意見が出る。国際的コミュニケーションにある程度触れている大学の人々でも文化の違いは恐ろしいほど出るのです。

(中略)
「国連でインド人を黙らせるのと日本人をしゃべらせるのは難しい」というジョークがあるそうです。国際的にみても日本人は自分の意見を最もはつきりさせない民族のほうに入るのです。なぜ日本人がそうなつてしまつたのかにはさまざま歴史的原因があるのでしょう。同じアジア人でも中国や韓国人人はしつかり自己主張します。アジアだから曖昧というわけではないようです。

①なぜそうなつたのか。ひとつには日本人が性格的に「シャイ(恥ずかしがり)」であることがあるかもしれません。意見に限らず、日本人は国際標準からみたらおしゃべりではないですね。(中略)

そして単に恥ずかしがりというだけではなくて、自分の意見を主張

することに対する遠慮がちです。これは、意見を持たない、意見を主張しないほうが得をする社会が歴史的に長く続いたからではないかと思います。

日本では自分の意見をはつきり言うと、そのことで責任を押しつけられる。一方、自分の意見が正しかつたとしても、そのプラス点はあまり評価されない。あまり意見を言わないでいたほうが得だ、全体の流れに従つているほうが被害が少ないという「評価の体系」が江戸時代以来ずっと続いているわけです。

もし日本だけで社会が成り立つているなら、好き嫌いはさておき、シャイに意見を主張しない文化でやつていくこともできるでしょう。しかし、ビジネスも文化も政治も世界と繋がつてゐる時代です。特に21世紀に入つて、グローバル化は急速に進んでいます。そうなると「意見をはつきり言わない」「自己主張しない」日本人式のコミュニケーションのマイナス面が非常に露骨になってきました。国際社会で日本人が渡り合つていくには、あるいは才能を発揮していくには、「意見をはつきり言う」「自己主張する」能力が不可欠になつてゐるのです。

(齋藤孝「新聞で学力を伸ばす」)

* (注) 体系=ここでは、制度のこと。

グローバル化=国などの境界をこえて、さまざまなことが世界規模で行われるようになること。

私たち日本人は意見を言えない、グローバルな時代に向けてもつと意見を言えるようにならないといけないといった論調が、マスメディアを通してさかんに聞こえてくる。それは、もつともな意見ではあるが、なぜ意見を言えないのかにもっと目を向ける必要がある。意見を言えないということには、デメリットばかりでなく、何か良い面もあるのではないか。そうでなければ、そうした伝統が長く維持されるものではない。そこで浮上してきたのが、相手を思いやる心の構えである。

イヤと言えない心理も同様だ。悪く言えば優柔不断^{ゆうじゅふだん}ということになるが、良く言えば相手の気持ちを思いやるからこそ、イヤと言えないのである。自分の気持ちや都合しかB眼中^{ゆうぢゆう}になければ、イヤと言うのはいとも簡単なことのはずだ。

そう考へると、イヤと言えないというのは、相手の視点^{しょてん}に立つことができ、相手の視点からものを言おうといった、やさしい気持ちのあらわれと言える。自分のホンネではイヤなのだが、相手の視点に立つとき、⁽²⁾どうしてもイヤと言いにくくなってしまう。何と奥ゆかしい心理構造なのだろうか。このような、相手の気持ちを思いやり、相手の視点に立つことのできる心性は、積極的に評価すべきだろう。

(中略)

相手の視点に立てるということは、自分の視点を絶対化せずに、ものごとを多面的に見ることができることにつながる。一面的にしかものごとを見られない人は、自分の見方を絶対的に正しいと信じ込む。そうすると、意見の違う相手がいれば、その相手が間違っているとして、対決の姿勢^{しせい}をとることになる。国家間の対立も、集団と集團あるいは個人と個人の対立も、こうした構図のもとに深刻化してい

くものといえる。

他者の視点を取り入れることで、利己的なホンネにブレークをかけることができる。はつきり意見を言えない心理。イヤと言えない心理。そうした日本的なコミュニケーションの欠点とそれがちな傾向^{けいこう}も、見方を変えれば、争いを防ぐ厚みのある二重構造をもつていると肯定的に評価することができるのだ。

(榎本博明「『すみません』の国」)

* (注) 心性=心のあり方。

利己的=自分の利益だけを考えること。

肯定的=積極的に認めること。

(問二) 線部A「照らして」、線部B「眼中になければ」の

意味をそれぞれ次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|---|---|----------|---|---------|
| A | ア | 導かれて | イ | 見比べ |
| B | ア | 受け入れなければ | イ | 理解しなければ |
| | ウ | 気にかけなければ | エ | 認めなければ |

筆者は日本人が自分の意見を主張できない理由としてどのようにことを挙げていますか。次の文の□に当てはまる言葉を、文章A中から十四字で書きなさい。

- ・日本人がシャイなことと、□をする社会が長く続き、
- ・自分の意見を主張することに遠慮がちになったこと。

問題は次のページに続きます。

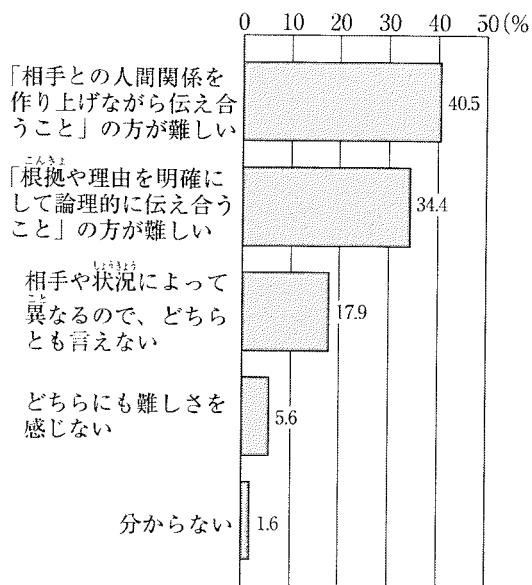
(問三) — 線部②「どうしてもイヤと言いたくなってしまう」と

あります。なぜですか。文章B中の言葉を使って、二十字以上、三十字以内で書きなさい。

(問四) 日本人が自己主張を苦手としていることについて、文章A・Bの筆者はそれぞれどのように考えていますか。文章A・B中の言葉を使って、五十字以上、六十字以内で書きなさい。

(問五) ある小学校のクラスで、先生が児童に次の資料を見せました。文章A・Bと、この資料を関連させて考えた児童の意見として、最も適切なものはどれですか。あのアーチから一つ選び、記号で答えなさい。

資料 人とのコミュニケーションにおいて、難しいと感じること



平成二十四年度「国語に関する世論調査」(文化庁)より

ア 国際化により、態度から相手の本心を察するやり方が日本

人の間でも困難になつたため、「根拠や理由を明確にして論理的に伝え合うこと」を難しいと感じる人が多いのだろう。

イ 日本では、自己主張すると評価が下がることを気にしながら自分の意見を言えないため、「相手との人間関係を作り上げながら伝え合うこと」は難しいと感じるのだろう。

ウ 日本は自己主張を必要としない社会で、どのように自分の意見を伝えたらよいかわからないため、「根拠や理由を明確にして論理的に伝え合うこと」を難しいと感じるのだろう。
エ 日本人は相手を尊重して、自分の考え方を見方はつきりと伝えないことが多いため、「相手との人間関係を作り上げながら伝え合うこと」を難しいと感じる人が多いのだろう。

(問六)

「自己主張すること」について、あなたはどのように考えますか。自分自身の体験にふれつつ、文章A・Bのいすれか、または両方に述べられている筆者の考えに関連づけて書きなさい。なお、作文にあたつては、次の条件にしたがつて書くこと。

- 三段落構成とし、「はじめ・なか・おわり」を意識して書くこと。
- 題名、氏名は書かずに、一行目から書き始めること。
- 三百六十字以上、四百字以内で書くこと。
- 原稿用紙の正しい使い方で書き、書き出しは一まず空けること。